

環境問題対策総合研修会開催

“臨床検査を取り巻く環境変化に対応するため”の研修会を、去る 1 月 10 日(土)・11 日(日)の両日、パシフィコ横浜会議センター小ホールにおいて開催した。

この研修会は、来るべき世代のために臨床検査を担う我々臨床検査技師の責任においても必要と考えられる環境問題を総合的に研修する目的であった。

更に、この問題は単に我々のみならず国民とともに考えるべきであり一般公開とした。

しかし、広報の不足や開催日程のためもあり、当日の参加者は僅か数十名という残念な結果となったが、環境を総合的に考えるという内容の充実したものであった。

以下に講演タイトルを示す。〈敬称略〉

1. 地球温暖化研究の現状

国立環境研究所企画部環境科学専門員 功刀正行

2. 労働災害防止における職場環境の取組

日本医科大学千葉北総病院病理部 清水秀樹

3. 環境ホルモン(内分泌攪乱物質)と予防医学

千葉大学大学院医学研究院教授 森 千里

4. 臨床検査技師会の持続可能な発展を目的とした循環型臨床検査システム

日本臨床衛生検査技師会環境対策委員会 才藤純一

5. 環境とヘルス・プロモーション

桐蔭横浜大学医工工学部特任教授 涌井史郎

6. 環境変化がもたらす新興・再興感染症

国立感染研究所昆虫医科学部 小林陸生

7. 厚生労働行政における感染症対策

厚生労働省健康局結核感染症課課長補佐 梅田浩史

8. 医療機関における感染管理の実践

順天堂大学医学部附属順天堂医院臨床検査部 三澤成毅

9. 輸血療法および輸血検査の内外最新情報

株式会社イムコア 佐々木正照

10. 輸血療法の今後の展望

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 河原和夫

紙面の都合で詳細を掲載出来ないが、ホームページの会報 JAMT〈速報版〉に掲載しているので一読願いたい。必ずや、その内容には満足されることと考える。

臨床検査技師実習施設指導者等養成講習会

平成 20 年度(第 13 回:西会場)の標記講習会が、平成 20 年 12 月 11 日から 3 日間の日程で、参加者 63 名で終了した。

西会場の講習内容は東会場とは異なり、臨地実習により即したものであった。

ただ一つの講演〈病院経営管理から見た検査部門〉が東会場と同じであった。その演題は、終了後に行ったアンケートにおいても好評であり、今後のカリキュラム作成において大いに参考になった。

受講者 63 名中、施設から派遣された者が多く、自ら受講を望んだ者は 10 名に止まった。受講の効果として、非常にありとした者は 17 名である程度ありとの答えは 40 名であった。

東会場では、それぞれ 39 名、36 名であった。東会場での講習終了時にも述べたが、両会場でのアンケートを検証しつつ今後は両会場を統一した内容で開催することを主眼にした検討となる。

AED の普及が 6 倍に…

自動体外式除細動器(AED)を使用している一般国民による手当が 2007 年に 287 件となり、2 年間で 6 倍に増加したという発表がある。手当を施された者の生存率は 1 か月で 43%となり使用しない場合の約 4 倍となっており、その効果が評価されている。この AED は 2004 年から医療従事者以外の一般国民も使用可能となっており、厚生労働省における調査では、医療や消防機関を除く公共施設での設置は 2007 年末で 8 万 8265 台となっている。

日臨技においては既に公益事業の一環として各地区や各県技師会での一般国民へ対する講習会の開催を勧めており、今後もその事業を推進することとなる。

話題の窓

介護報酬加算で資格試験に 13 万人

介護福祉士の資格試験に 13 万人が希望しているという。現在資格保有者の 20 万人が実際には働いていないといわれるが、介護施設の給料は月額で約 22 万 7,100 円に止まっている現状に要因があるようである。そのため、職員に占める介護士の割合が 50%以上の事業者(介護施設)に対し、年間 400 万円の介護報酬の加算が認められそうだ。しかし、介護士をサポートする 1 級 2 級ヘルパーを加えた場合、職員の数が増えることになり、結果、介護士比率が減少することになり単純には喜べない現状となる。

インドネシア研修生の受け入れ支援組織

一方、EPA 協定による看護や介護におけるインドネシア研修生の受け入れ支援組織が設立され、その研修会も行われている。この研修制度は、医師をはじめとする医療職種に対する制度であり、今後ますます増加することも予想される。この研修を修了すると、日本の国家試験受験資格が与えられるわけであり、単に国際協調、グローバル化と呼ぶには大きな問題を含んでいると思わざるを得ない。

医師不足のための看護師教育に疑問

一部の報道によると、日本医師会常任理事は看護師教育・養成に関して「医師不足のために医療行為にまで踏み込んだ役割分担の議論は間違い」という認識を示したとされる。更に、その議論内容は現行の医師法や保助看法の中で対応可能であると指摘したという。そのためのナースプラクティショナー(NP)などの新職種の設置に否定的であることが示された。また、症状の判断は難しく、プロとしての判断を迫られることで、患者に対する責任者は医師であると述べた。医療行為の役割分担について議論するのは、医師の養成に比べ安上がりになるという発想であるとの批判を示した。現行法律での看護師の活用にも触れ、現行の法律でも看護師をもっと活用できるはずだと述べたという。

今月の花 きんせんか

黄金の盃の形をしていることから金盞花と書きます。

英国では聖母マリアの祭日に咲くため“マリア様の黄金花”と呼ばれます。

「悲しみ」「用心深さ」が花言葉です。2 月の花としては他には、梅、椿、ひなぎく、じんちょうげ 等があります。春が近いので“ふきのとう”も加わっています。

